

経営者目線で解説！クラウドを活用した中小企業のDX実現手順

DX（デジタルトランスフォーメーション）に関して自社は遅れていると考えている小企業経営者が多くおられます。

2023年、中小機構の調査によると、従業員100人以上の企業では26.4%がDXを理解しているのに対し、20人以下の小企業ではその割合が7.6%と約3.5倍の差があります。また、20人以下の企業の約4分の1がDXを「理解していない」と回答しています。

クラウドストレージを社内データの保全（バックアップ）とデータ共有利用するところから導入すると良いでしょう。

1. コスト面のメリット

社内データサーバー又はNAS（ネットワークHDD）などの物理的な設備と比較して、初期投資は「ゼロ」保守管理ソフトウェアアップデートなどの運用コスト（月額費用）を大きく削減できます。
クラウド月額利用料金だけです。

（例）少量（5GB程度）のクラウドストレージなら無料です。

2. 災害対策（BCP対策）

事業継続に情報（データ）資産はなくてはならない重要な資産です。

クラウドストレージは、物理的な場所とは別の遠隔地にデータを保存するため、自然災害や事故によるデータ損失リスクをなくせます。

3. 自動バックアップ

データ保全のために定期的にバックアップ作業を行っている経営者が多いです。

クラウドストレージはデータのバックアッププロセスを自動化されています。手動での作業を減らすことが瞬時にバックアップ（同期）できます。

4. リモートアクセス

クラウドストレージは、インターネット環境さえあれば、どこからでもデータにアクセスすることができます。

社内でのデータ共有だけでなく

外出先でのデータ共有も可能です。リモートワークやモバイルワークなどの柔軟な働き方を支援することができます。



5. デメリット

① クラウドストレージを活用するには高速インターネット環境が必須となります。ネット環境がないところでは使えません。インターネット環境も合わせて確認しましょう。

② 利用者にも知識が必要。活用するのは従業員さんです。活用方法などの従業員教育も不可欠です。

弊社では、お客様の環境を診断し、最適なIT環境をご提案させていただいています。PCの選定から周辺機器の設定までご要望に合わせたサポートを心掛けています。お気軽にご相談・お問い合わせください。

クラウド活用 無料セミナーのお知らせ

4月10日の無料セミナーは、盛会にて終わることが出来ました。ありがとうございます。

5月は、別紙の様に

「AIの未来世界を体感！ AIに話しかけてみよう！ ChatGPT」と題して2回目の無料セミナーを開催します。

【編集】 株式会社 ハイフライサポート

代表取締役 今村 進一 (ITコーディネーター)

TEL: 090-9518-5810 Mail: info@hiflysupport.com

